

# 城南地区ふるさと自立計画

## みんなで楽しく暮らせるまち

豊かな自然と歴史文化の中、  
農業を中心に新しい産業が生まれて活気があり、  
子どもからお年寄りまで、みんなで楽しく暮らせる  
城南地区 をめざします！

平成 23 年 3 月

城南地区まちづくり協議会

## 目次

序章 ふるさと自立計画について.....	1
1. ふるさと自立計画の位置づけ.....	1
2. 計画の対象と構成等.....	2
第1章 城南地区の現況.....	3
1. 城南地区の現況.....	3
2. 地域住民の意向.....	6
3. 地域活動の現状.....	13
第2章 まちづくりの主要課題.....	14
第3章 城南地区が目指す将来像と活動内容.....	15
1. まちづくりのテーマと活動方針、活動内容.....	15
2. ふるさとの自立に向けた重点取り組み.....	18
第4章 ふるさと自立計画の進め方.....	19
参考資料一城南地区ふるさと自立計画策定の経過.....	20

# 序章 ふるさと自立計画について

## 1. ふるさと自立計画の位置づけ

### 1) ふるさと自立計画とは

篠山市では、来年度から第2次篠山市総合計画がスタートします。今後、10年における篠山市の目標、活性化の仕組みや過程を表す、まちづくり指針としての役割を果たすもので、まちづくりの最上位に位置するものです。

この計画では、篠山市の将来像を「人・自然・文化が織りなす食と農の都」とし、人と自然と文化が共生する「農の都」のまちづくり、丹波篠山の特産品などを活かした活力ある「食の都」のまちづくりを基本理念としています。

また、市総合計画のまちづくりの基本方針（政策大綱）には、「市民が主役、市民が主体でつくるまち」を主要な方針の一つとして明記されています。

地域においては、それぞれの地域の将来の姿を描き、それを実現するために、誰が、何を、いつまでに、どんな資源を使って、実践したらいいのか、をまとめたものが「ふるさと自立計画」です。

### 2) 城南地区ふるさと自立計画の役割

城南地区ふるさと自立計画は、地域のまちづくりの指針となる計画であり、以下のような役割を持っています。

#### ①地域での活動・事業における役割・関係を明確にする

---

地域には、様々な活動・事業（安全防犯活動、福祉活動、環境保全活動、文化の伝承、地域づくり等）があります。それらの役割・関係などの位置づけを明確にすれば、どこに重点を置くべきか、新たに取り組むべきものが何か、などが分かりやすくなります。

#### ②地域での活動の効率化が図れる

---

様々な活動が、協力・連携しやすくなり、活動を統合するなど効率的な活動を進めていくことができます。

#### ③地域に必要な公共サービスの優先順位がわかる

---

地域に必要な公共サービスを明らかにして、体系化することにより、サービスの優先順位がわかりやすくなります。まず、どこに絞って活動したらいいのかが見えてきます。

#### ④ふるさと自立計画をつくるのが大切な経験（資産）となる

---

ふるさと自立計画をつくるプロセスが一番重要で、地域の大勢の人々が一緒になって議論、検討を重ねていくことが、大切な経験（資産）として積み重ねられていきます。

## 2. 計画の対象と構成等

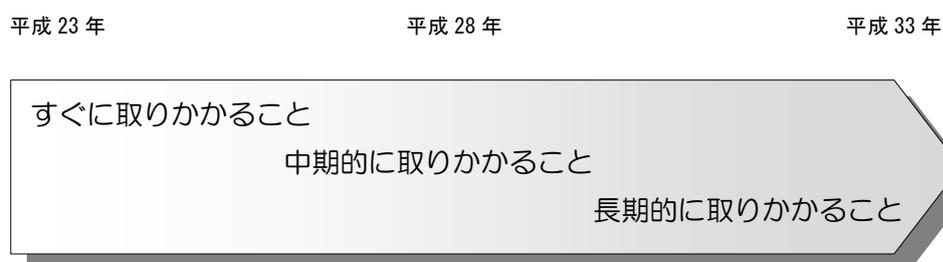
### 1) 計画の対象

城南地区ふるさと自立計画の対象範囲は、城南地区（城南地区まちづくり協議会）を範囲とします。

### 2) 目標年次と取り組み

城南地区ふるさと自立計画は、長期的な地域のまちづくりの基本方針や今後の取り組み施策を示すものであり、概ね10年後の地域のあるべき姿を描くことを目標とします。

10年後の地域の将来像を実現するために、これから行っていく取り組みとして、すぐに取りかかること（～2年以内）、中期的に取りかかること（2～3年）、長期的に取りかかること（4～5年又はそれ以降）に区分し、いつまでにやっていくのかを明確にします。



### 3) 取り組みの役割分担

地域でできることは地域主体で、専門知識やノウハウが必要となれば様々な方との協働で、行政がしなければいけないことは行政主体で行っていくなど役割分担を明確にします。

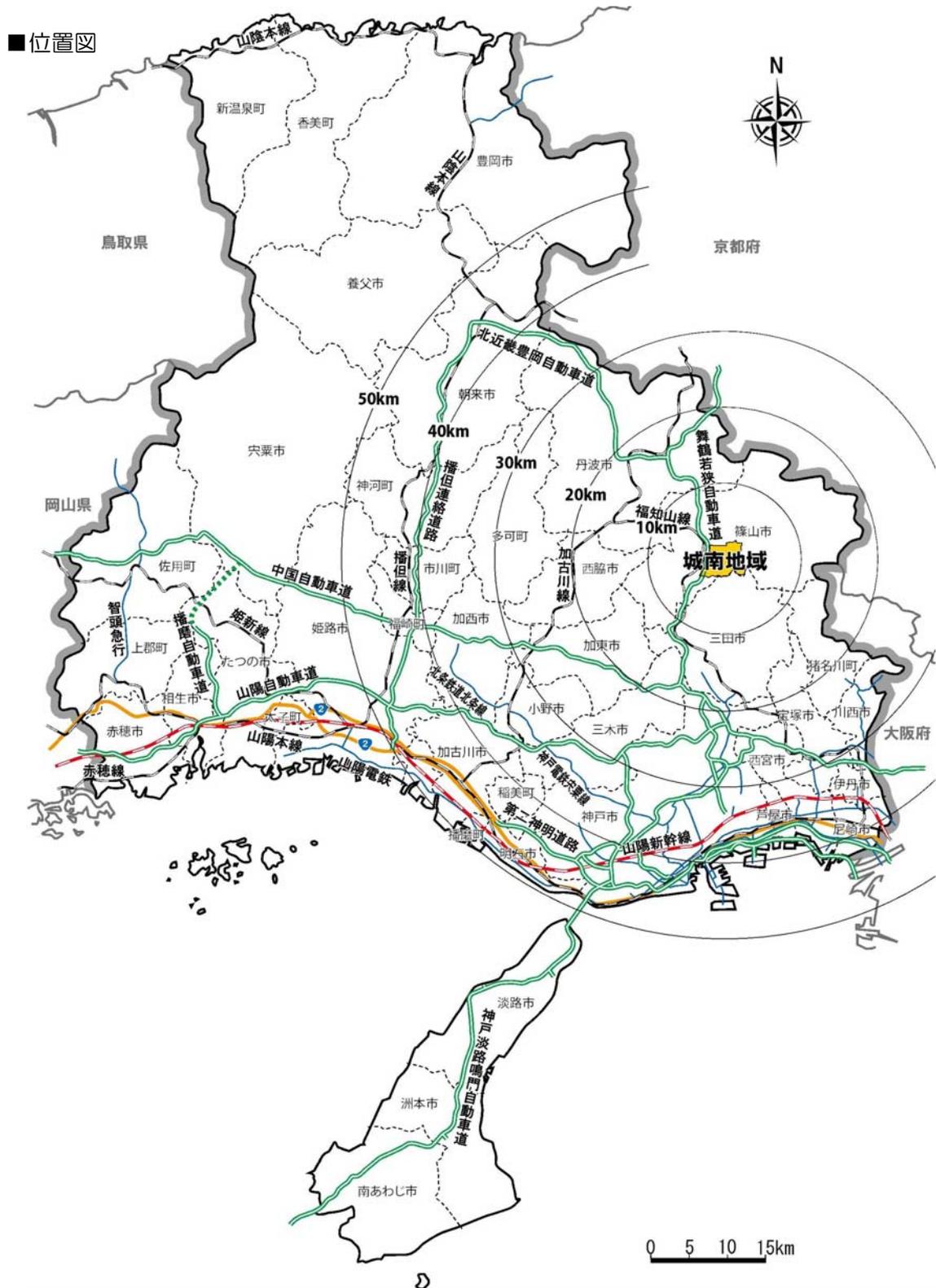
# 第1章 城南地区の現況

## 1. 城南地区の現況

### 1) 位置

城南地区は、兵庫県篠山市のほぼ中央、国史跡の篠山城跡の南西部（旧丹南町）に位置する農村集落地域で、南は三田市に隣接する約 18k m<sup>2</sup>の地域です。

阪神間の大都市からは約 30～40km の距離にあり、高速自動車道等を利用すると 1 時間圏内の位置にあります。



## 2) 地勢

城南地区は、北部の篠山盆地の南端部の平坦地とデカンショ街道（国道 372 号）沿いに形成された平坦地に農地・集落が営まれています。

地域南部は 三国ヶ岳、愛宕山を背景に武庫川を源流の地として豊かな農地に恵まれ龍蔵寺、二村神社を信仰の対象として発展してきました。



## 3) 交通

道路交通としては、国道 372 号及び県道が東西に貫いています。地区の西端には南北に舞鶴自動車道が走り、丹南篠山口インターチェンジが立地しています。

鉄道としては、JR 篠山口駅、南矢代駅が最寄り駅として立地し、阪神間への通勤者が多く乗降しています

## 4) 歴史・文化

城南地区は、文字通り篠山城の南に位置し、明治時代より物流の原点となっていた「運河」（田松川）は穏やかな水の流れと共にこの地域をはぐくんできました。

姫路から京都に通じる国道 372 号は、篠山城築城に際して石材の輸送ルートとして重要な役割を果たし、栗栖野地区には、往事を偲ばせる寄進者の刻印の残る大石が残されています。

城南地区は、旧丹南町であったが、平成 11 年 4 月 1 日に篠山町・今田町・西紀町の 3 町と合併し、篠山市となった。

## 5) 人口・世帯数

城南地区の人口は、平成 22 年 1 月 31 日現在で、3,106 人、1,063 世帯となっており、1 世帯あたりの平均人員は、2.92 人/世帯となっています。

また、地域の 65 歳以上人口は、643 人で城南地区の人口の 20.7%を占めています。篠山市全体の 65 歳以上人口は 26.5%であり、比較すると高齢化率が低い地域といえます。

	15歳未満			15歳～64歳			65歳以上		
	H7	H12	H17	H7	H12	H17	H7	H12	H17
北	39	46	44	111	133	156	24	31	31
野中	44	174	119	154	422	301	49	64	66
谷山	36	27	20	104	98	84	41	52	62
岩崎	45	33	35	126	94	109	45	46	50
宇土	57	45	48	178	218	249	59	61	64
小枕	81	60	42	274	237	225	76	97	97
真南条上	20	30	20	73	87	81	39	47	54
真南条中	49	29	20	157	118	114	69	65	56
真南条下	23	11	13	83	146	114	47	40	42
栗栖野	18	19	15	73	62	57	29	35	42
城南地域全体	412	474	376	1,333	1,615	1,490	478	538	564
旧丹南町	2,649	2,426	2,100	9,174	9,688	9,455	2,680	3,002	3,256
篠山市	-	7,266	6,329	-	27,734	26,932	-	11,325	11,974

資料：国勢調査



## 2. 地域住民の意向

### 1) まちづくりアンケート調査

ここでは、城南地区のまちづくりに向け、地域住民の意向把握を目的とした城南地区まちづくりアンケート調査結果の概要を整理します。

#### (1) 調査概要

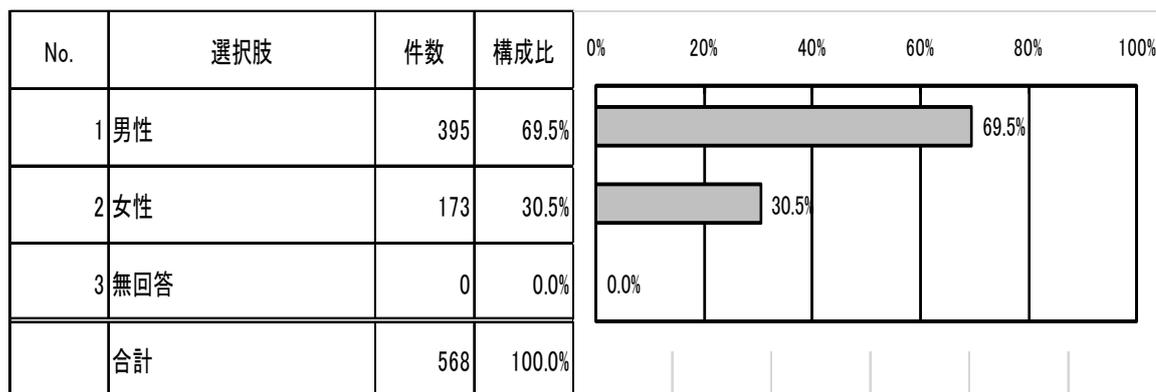
調査時期	・平成22年10月
調査対象	・城南地区にお住まいの全世帯
調査方法	・区長を通じての直接配布及び回収
回収数	・578件（回収率66.4%、内、有効回答数：568件）
主な調査内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回答者の属性（年齢、世帯人員、職業 等）</li> <li>・生活環境（住みやすさ、今後の居住意向、将来の地域像 等）</li> <li>・自然環境（魅力・問題、ごみ処理 等）</li> <li>・農業（耕作面積、農業後継者の対応、遊休地の活用）</li> <li>・子どもを育む環境整備（まちづくりへの子供の参加）</li> <li>・防犯・防災等、安全・安心（病院への交通手段）</li> <li>・各種イベント・行事への参加意向</li> </ul>

#### (2) 城南地区まちづくりアンケート調査票 集落別 配布・回収結果一覧

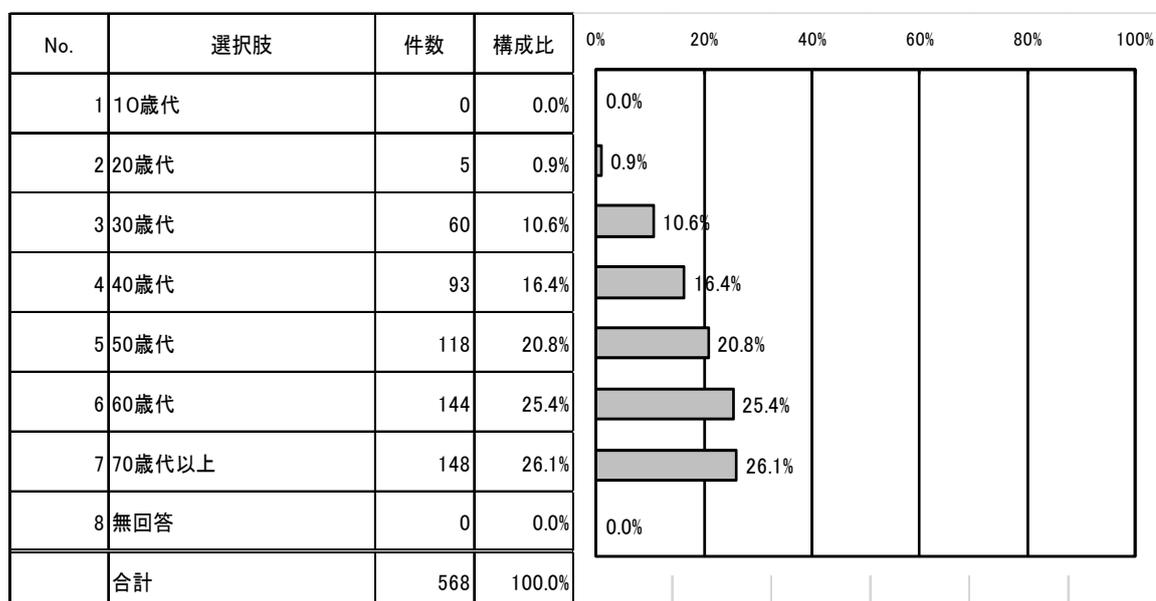
集落名	配布枚数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
北	58	27	46.6%	27	46.6%
ひまわり	38	19	50.0%	19	50.0%
野中	125	90	72.0%	89	71.2%
リバーサイド	95	64	67.4%	63	66.3%
谷山	47	41	87.2%	38	80.9%
岩崎	59	43	72.9%	43	72.9%
宇土	155	87	56.1%	86	55.5%
小枕	96	70	72.9%	69	71.9%
真南条上	50	41	82.0%	40	80.0%
真南条中	60	36	60.0%	36	60.0%
真南条下	60	37	61.7%	36	60.0%
栗栖野	28	23	82.1%	22	78.6%
合計	871	578	66.4%	568	65.2%

### (3) 回答者の属性

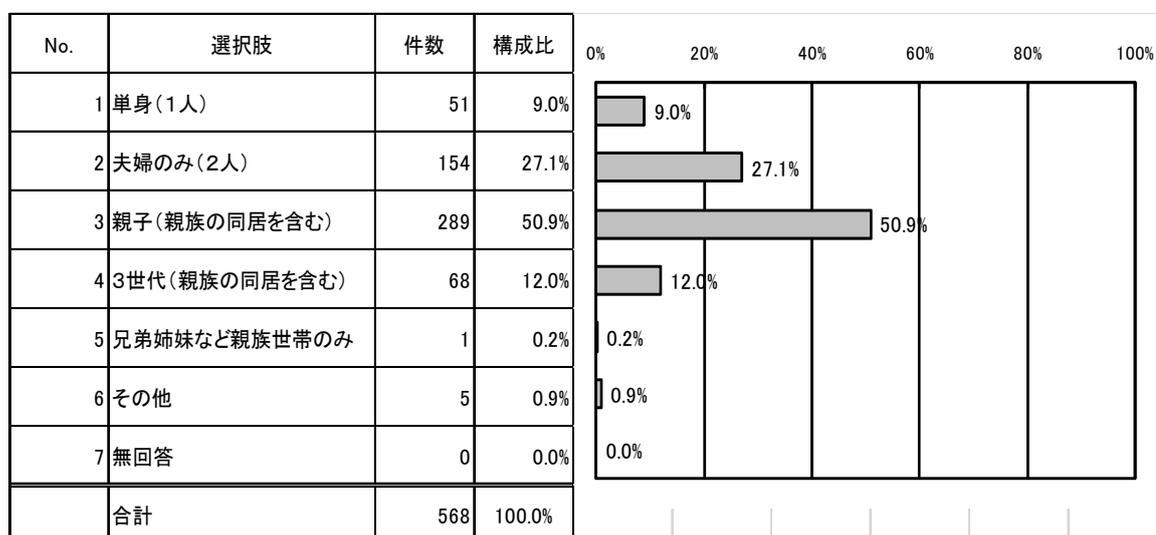
#### ①性別



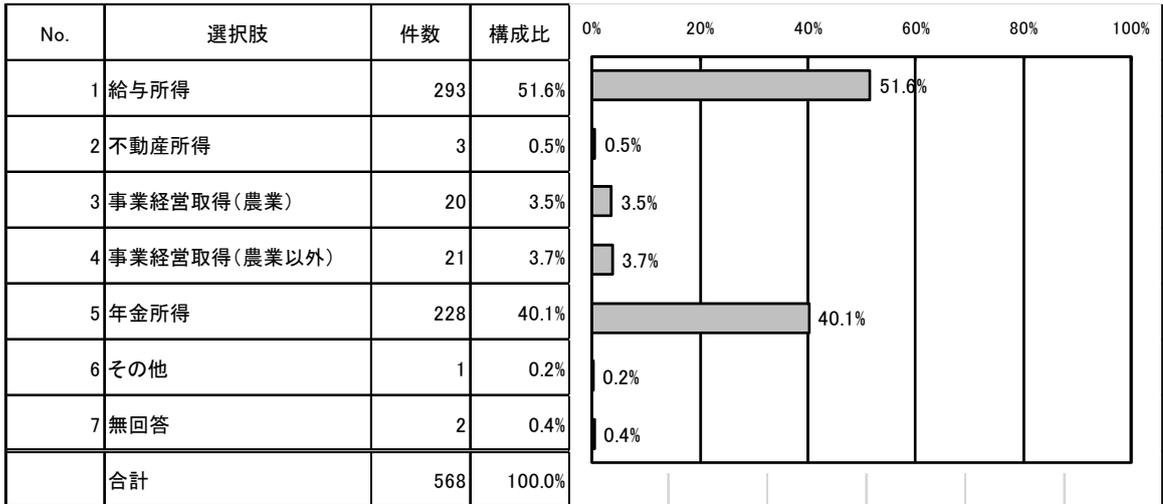
#### ②年齢



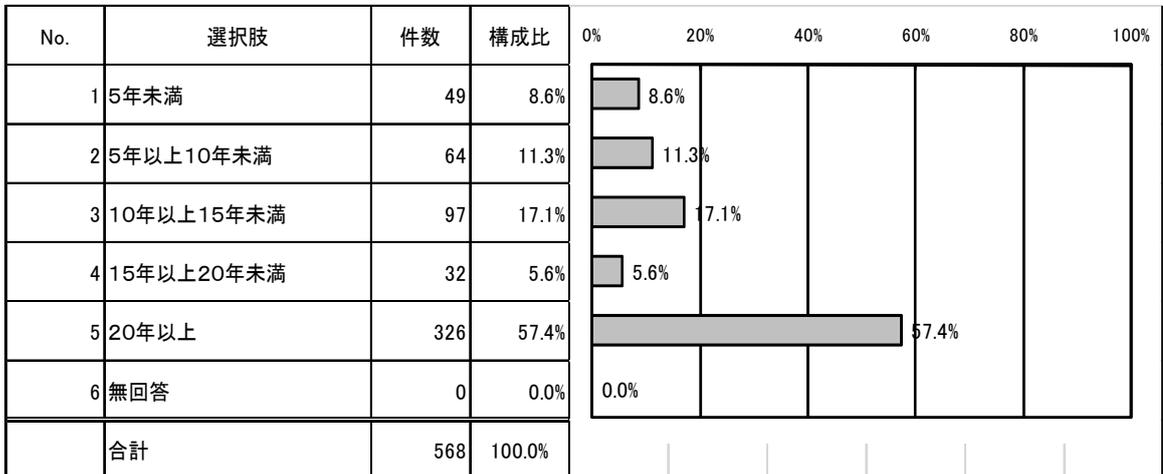
#### ③家族構成



#### ④世帯の主たる収入



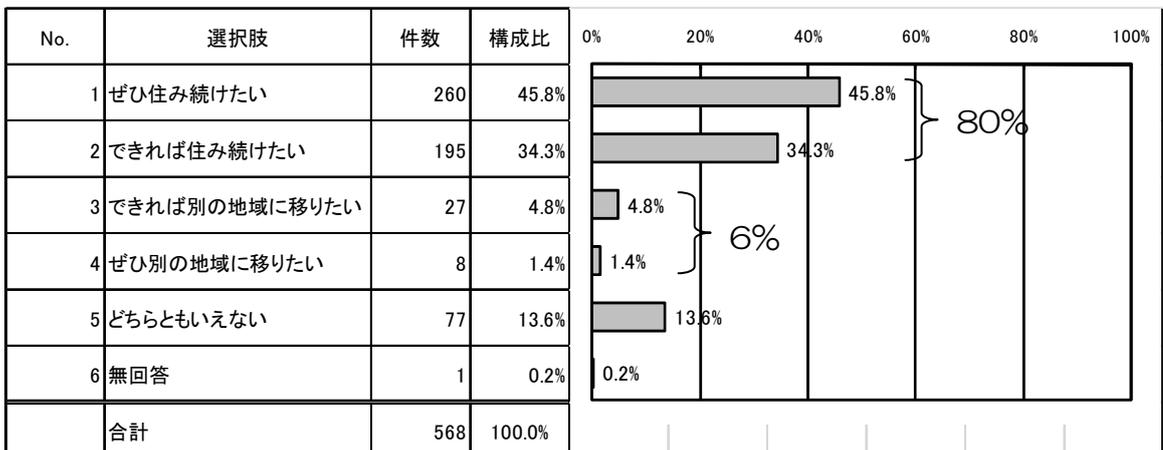
#### ⑤家族の城南地区での定住期間



### (4) アンケート調査の結果概要

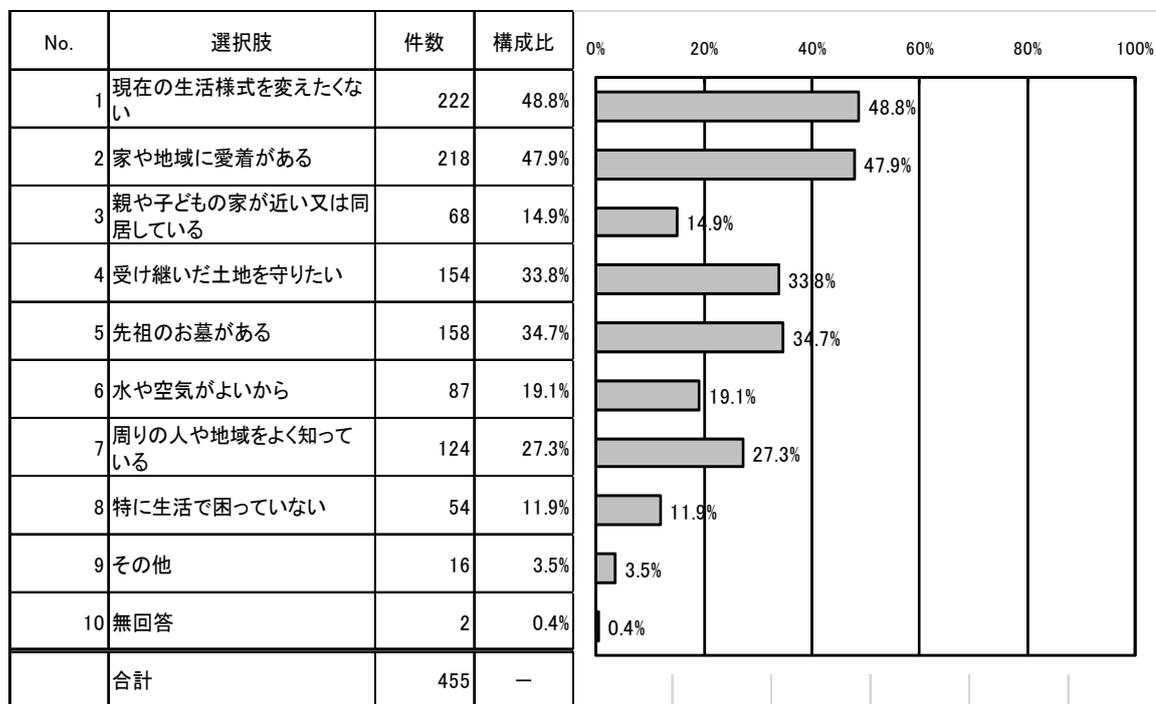
#### ①地区への愛着(問: 将来も城南に住み続けたいですか。)

- ・「住み続けたい」が80%、「別の地域へ移りたい」が6%と、地区への愛着が大変高い地域であると言えます。



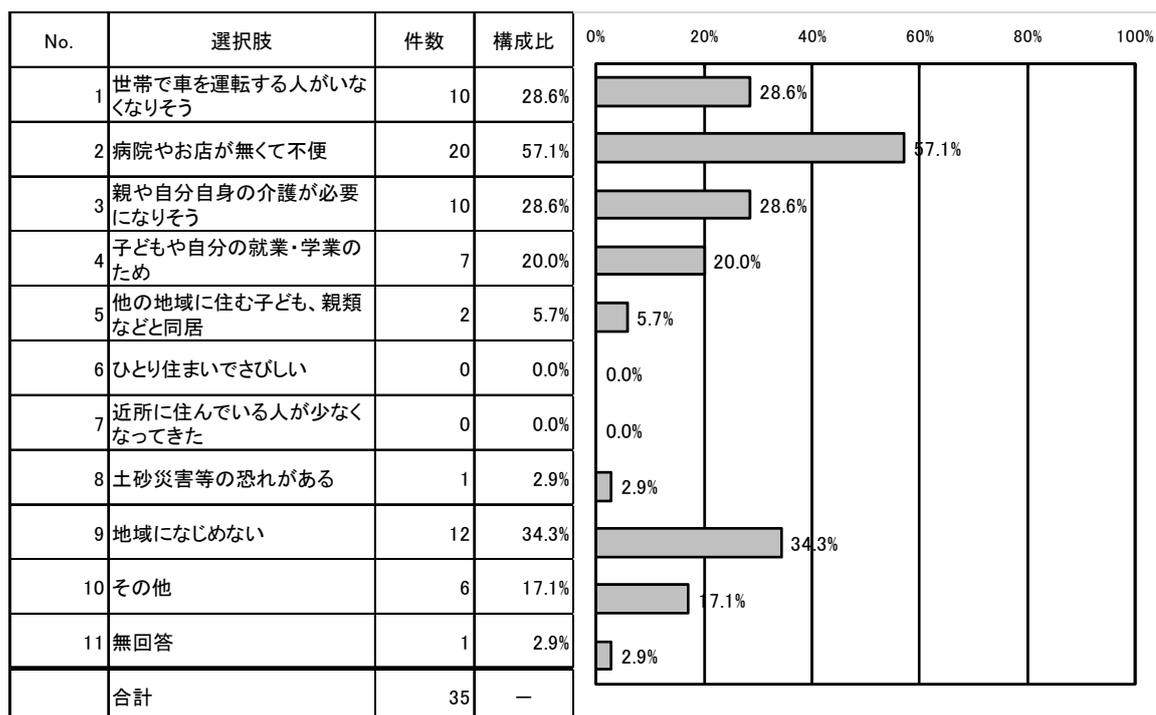
## ② 「住み続けたい」理由

- ・住み続けたい理由としては、「現在の生活様式を変えたくない」と「家や地域に愛着がある」が多く、次いで「受け継いだ土地を守りたい」や「先祖のお墓がある」、「周りの人や地域をよく知っている」などの土地に関することであった。



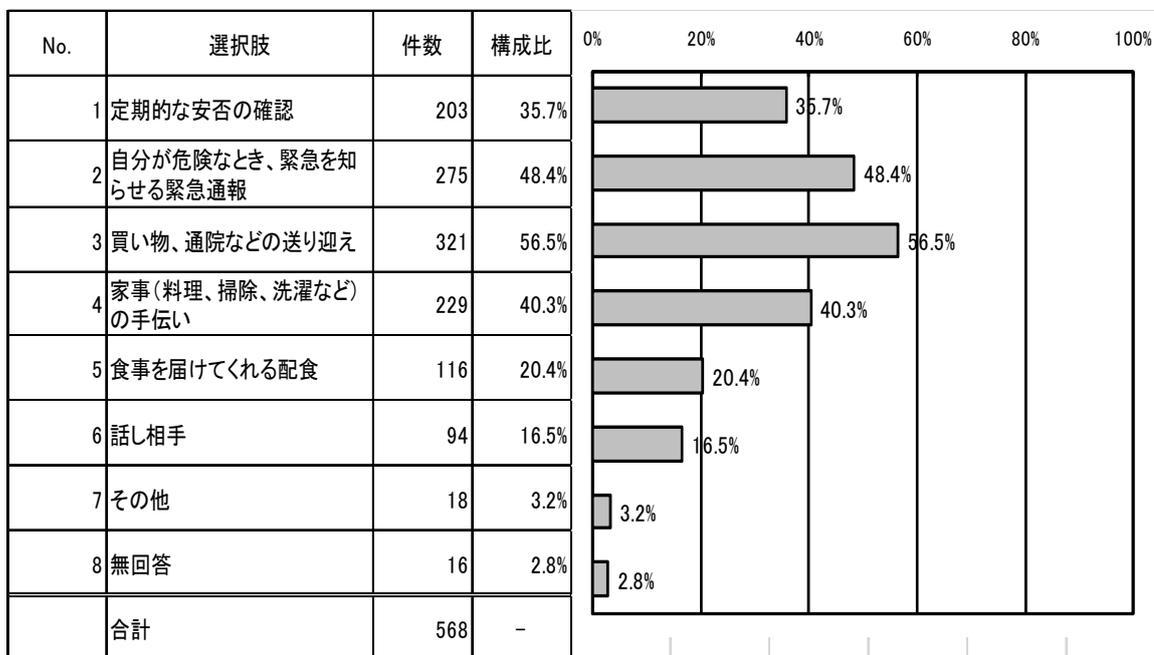
## ③ 「別の地域へ移りたい」理由

- ・別の地域へ移りたい理由としては、「病院やお店がなくて不便」のほか、「世帯で車を運転する人がいなくなりそう」や「親や自分自身の介護が必要になりそう」などの高齢化に伴うものが多かった。



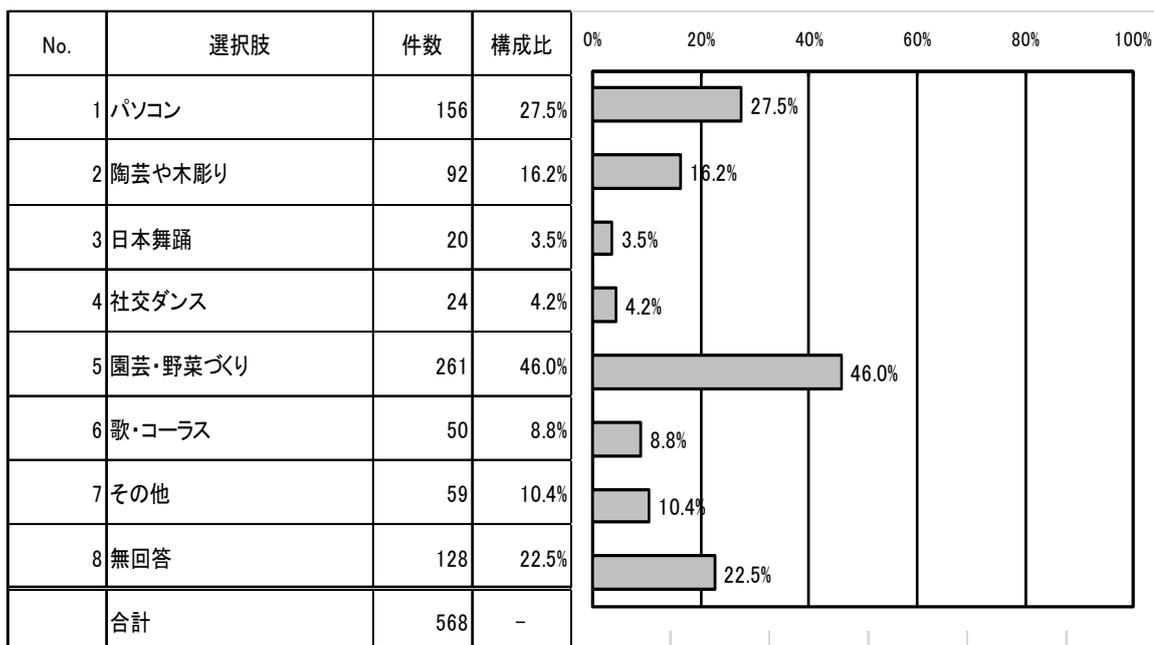
#### ④今後必要となるサービス

- ・「あなたや同居している家族が病気又は高齢になるなどして、日常生活が不自由になったとき、どのようなサービスが必要だと思いますか。」という問いに対して、「買い物、通院などお送り迎え」、「緊急通報」や「安否確認」、「家事の手伝い」など、高齢化に伴うサービスが強く望まれています。

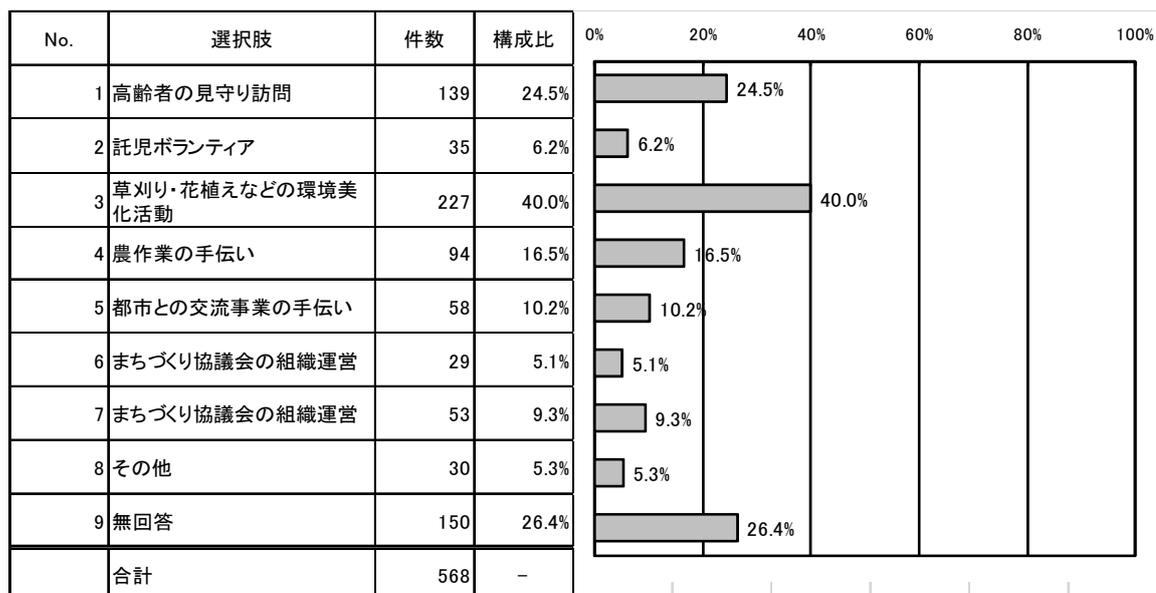


#### ⑤生涯学習

- ・「習ってみたい生涯学習活動」では、「園芸・野菜づくり」が最も多く、次いで「パソコン」であった。

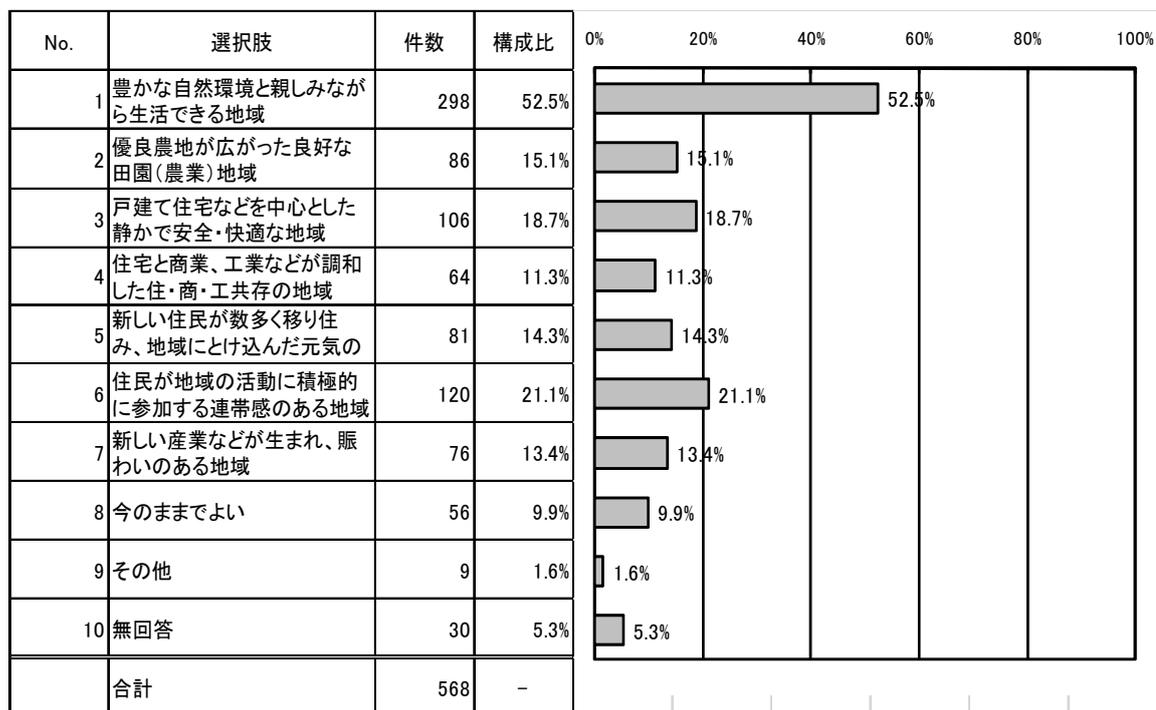


## ⑥あなたが城南のためにできることは



## ⑦城南地区の将来像

- ・地域の目指すべき将来像としては、「豊かな自然と親しみながら生活できる地域」が最も高く、現在の地域環境の良さが反映されていると思われる。



## 2) ワークショップでの意見

### (1) 地域の現状

#### ①自然・農地

- ・田、畑、山の景色がきれい！
- ・自然が多くあり環境が良い
- ・空気おいしい！
- ・4月に咲く桜並木はきれい

#### ②歴史

- ・祭り（伝統）が受け継がれている
- ・女躰の碑と乙女塚と半夏生（ばげっしょ）
- ・歴史（八上城）が残っている
- ・馬口池と義経
- ・地域の歌、民謡が引き継ぐよう努力している人がいる

#### ③住みよさ

- ・住宅として住むのには最高の場所である。交通が便利である
- ・道路の整備ができて便利
- ・都会に近いので勤めに出やすい
- ・子育て支援、力が入っている
- ・今はまだ比較的児童数が多い
- ・地域の見守りはしっかりできている

#### ④交流・祭り・イベント

- ・収穫祭はよく行っている
- ・季節毎に地域のイベントがあって家族で楽しめる
- ・城南地区体育大会の年齢、男女等条件について、前向きな話し合いができた。
- ・住人の意欲を感じている

#### ⑤産業

- ・特産物の“赤ジャガ”小芋まで購入希望があり、とてもよく売れた。人気産物になっている
- ・地元のスーパーマーケットで、地元の農産品の販売に力を入れるようになった

など

### (2) 地域の問題点・課題

#### ①自然・農地

- ・イナゴが増えてきた
- ・谷間の農地の荒廃が進んでいる
- ・イノシシがきて荒らしまわる
- ・アライグマが悪いことをする

#### ②歴史

- ・地域の歴史の伝承が難しい（知る人の高齢化、減少）

#### ③住みよさ

- ・犬のフンの放置が多い
- ・空き缶のポイ捨てが多い
- ・車がないと生活できない
- ・映画館など文化的な施設が少ない
- ・集落内の道路が狭いところがある

#### ④交流・祭り・イベント

- ・旧住民と新住民との考え方の差、集落の行事に参加されていない！交流がない！
- ・色んな行事の役が特定の人に集中する
- ・地区に住んでいる住民の顔が分からない

#### ⑤産業

- ・農業は儲からない。採算が絶対に合わない
- ・農業の後継者

など

### 3. 地域活動の現状

城南地区におけるまちづくり等の地域活動は、平成 19 年 7 月に設立された城南地区まちづくり協議会が核となり、地域が一体となって活動をしています。

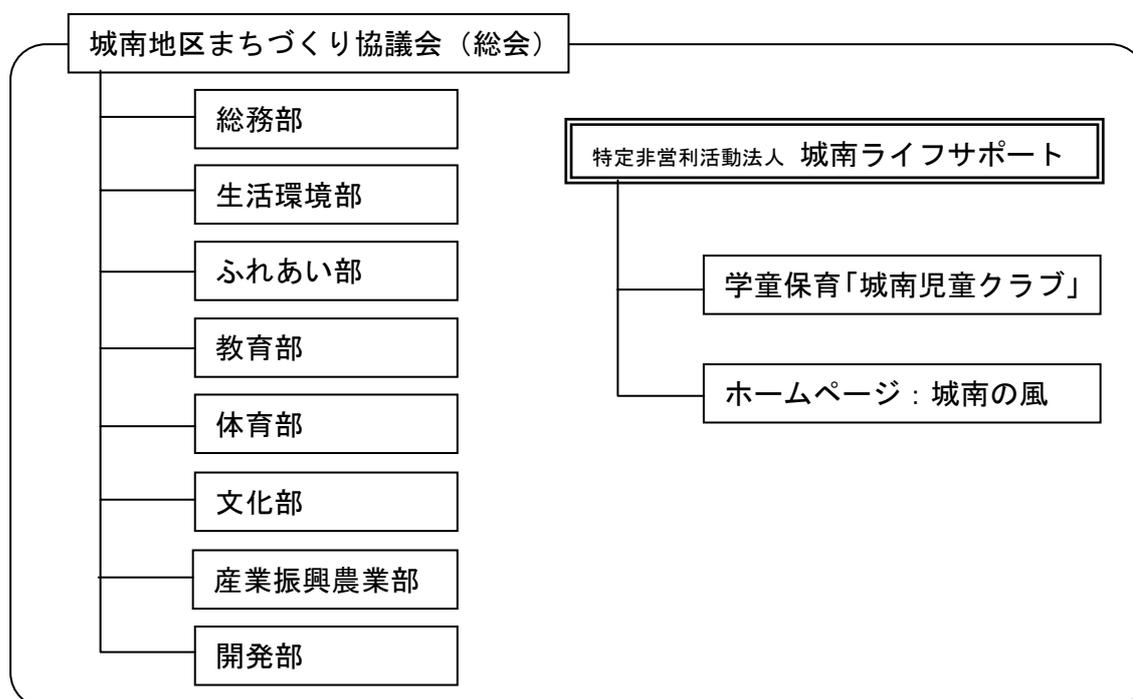
城南地区は以前から篠山市内の中でも自治会を中心にして校区としてのつながりが強い地域で、さまざまな取り組みが行われてきたところです。設立にあたって、協議会は自治会、高齢者団体、女性団体、福祉団体、環境保全団体、PTA、子供会等青少年教育関係団体、学識経験者、行政関係者、駐在所等城南地区で活動している各種団体を核として、ひろくすべての住民を構成員にしています。会長には酒井良治岩崎地区自治会長が就任し、そのもとで総務部、生活環境部、ふれあい部、教育部、体育部、文化部、産業振興農業部、開発部の 8 つの部会を設けて活動しています。

城南地区まちづくり協議会では、平成 22 年度から、篠山市内で初めてとなる「民設民営」の学童保育（城南児童クラブ）事業に取り組んでいます。そして、事業がより安定して継続できるよう、平成 22 年 3 月には特定非営利活動法人「城南ライフサポート」を同協議会内に立ち上げ、それを運営母体として事業に取り組んでいます。

#### ■城南地区でのまちづくりへの取り組み

- H18年 8月 各種団体に加えて「城南地区防犯グループ」を設立
- H19年 7月 まちづくり協議会設立総会
- H20年 7月 県民交流広場事業参画申請 9月承認 10月より事業開始
- H20年 11月 放課後教室「城南子ども教室」開校
- H21年 4月 神戸大農学部農業農村フィールド演習受入（計8回）
- H21年 4月 活動拠点（コミセン城南会館）増改築工事着工・8月竣工
- H22年 3月 NPO法人「城南ライフサポート」認可
- H22年 3月 神戸市灘区成徳ふれあいまちづくり協議会との交流調印式
- H22年 3月 まちづくり協議会として、農産品ネットショップ開設
- H22年 4月 民設民営の学童保育「城南児童クラブ」開所

#### ■城南地区まちづくり協議会の組織構成



## 第2章 まちづくりの主要課題

ここでは、「城南地区の現況」、「地域住民の意向」、「地域活動の現況」およびワークショップでの意見等を踏まえ、まちづくりの主要課題を整理します。

### 1) 地域全体に関わる課題

地区の高い定住指向を支えている「美しい地域環境づくり」をはじめ、高齢化社会を迎え「みんなで楽しく支えあう社会づくり」が地域課題としてあげられます。

また、地域の活性化を目指したコミュニティ・ビジネスの起業など「地域産業の活性化」や地区内外での交流促進など「地域内、地域外交流の活発化」があげられます。

そして、こうした活動を持続・継続していくことが重要であり、「持続可能な地域づくりと住民の参加意欲の向上」が地域課題としてあげられます。

### 2) 自然・歴史文化に関わる課題

地区の共有林などの里山は、林業の衰退や高齢化に伴い放置された状態にあります。里山は地域の自然環境の保全だけでなく、防災面や交流面なのでも重要な資源として位置づけられます。したがって、里山や農地を含む「自然環境保全の推進」が課題となっています。

地区の祭りや花見、地蔵盆などをはじめとする地域文化の伝承は、地区への愛着を醸成する上で重要であり、「歴史文化環境の保全の推進」が課題となっています。

### 3) 生活環境に関わる課題

城南地区は比較的若い世代の比率が大きいですが、高齢者は既に不安を抱えており「高齢者対策の推進」が課題となっています。また、今後の高齢化に対応した「生活の利便性の向上の推進」が地域の課題となっています。

また、地球温暖化に向けた対策として「環境保全、資源リサイクルの推進」に向けて取り組んでいます。

### 4) 地域活性化・産業振興に関わる課題

地域の活性化や産業振興にあたっては、地域の農林産物資源等を活かしたコミュニティ・ビジネス等の展開として「特産品を活かした農林産業の活性化」が課題となっています。

また、農業就業者の減少等により「新たな担い手確保による農業の保全」や「企業誘致等による新産業の創出」などが課題としてあげられています。

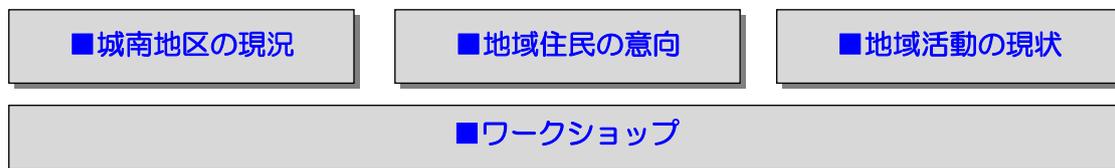
交流人口の拡大を図るため、「交流拠点、交流機会の創出による地域活性化」が課題としてあげられます。

## 第3章 城南地区が目指す将来像と活動内容

### 1. まちづくりのテーマと活動方針、活動内容

#### 1) まちづくりのテーマ

城南地区の目指すまちづくりのテーマを次のように設定します。



#### ■城南地区のまちづくりの主要課題

- 1) 美しい地域環境づくり
- 2) みんなで楽しく支えあう社会づくり
- 3) 地域産業の活性化
- 4) 地域内、地域外交流の活発化
- 5) 持続可能な地域づくりと住民の参加意欲の向上

- 6) 自然環境保全の推進
- 7) 歴史文化環境の保全の推進
- 8) 高齢者対策の推進
- 9) 生活の利便性の向上の推進
- 10) 環境保全、資源リサイクルの推進
- 11) 新たな担い手確保・農業の保全
- 12) 企業誘致等による新産業の創出
- 13) 交流拠点、交流機会の創出による地域活性化

#### 【城南地区のまちづくりのテーマ】

## みんなで楽しく暮らせるまち

豊かな自然と歴史文化の中、  
農業を中心に新しい産業が生まれて活気があり、  
子どもからお年寄りまで、  
みんなで楽しく暮らせる 城南地区 をめざします！

城南地区は、山麓に広がる田園地帯です。地域では、コシヒカリや黒大豆、山の芋を特産品として生産しているほか、神戸大学と連携した「赤ジャガイモ」づくりや焼耐用のサツマイモづくり等の新しい取り組みが進められています。

こうした地域の資源や新しい取り組みが見られる進取の気性に富んだ地域性を活かして、地域のみんなでまちづくりに取り組める環境を整えることで、「みんなで楽しく暮らせるまち」づくりを目指します。

## 2) まちづくりに向けた活動方針と具体的な活動内容

まちづくりのテーマである「みんなで楽しく暮らせるまち」の実現に向けて、まちづくりの将来目標と基本方針を地域全体に関する事項と3つの分野ごとに掲げ、まちづくりに取り組んでいきます。

### (1) 自然環境・歴史文化保全

#### ①自然環境保全の推進

○農地・里山の保全：山の清掃、里山林整備作業を協働です。マツタケ山、クリ山を復活させる（手入れをする）。農地を新住民に耕作してもらって野菜等を実際に作ってもらう。遊休地を非農家の人に貸してあげる。自由に家庭菜園として利用させる。新住民の方に使われない農地を借農園として斡旋する。山間部の放棄田に推進員や指導者に入ってもらう、同区域の地権者が共同して思い切った活動（植樹など）に取り組む。

○有害鳥獣対策：実態調査。獣害危険箇所調査。鹿、イノシシ等の適正頭数外の捕獲活動。柵等の設置。

#### ③歴史文化環境保全の推進

○美しい公園等の拠点づくり：休耕田を利用して、遊べる場を作る。広場づくり。

○地域文化の伝承、指導者育成：老人の知恵を伝達できる、若者や子ども達と集う機会を増やす。〈あるもの〉祭り、花見、地藏盆、角松づくり（しめなわ飾り）子ども達に山遊びを教える。遊びや習い事の指導者の育成、確保。

### (2) 生活環境の向上

#### ①高齢者対策の推進

○独居老人見守りの推進：お年寄り一人暮らしの家に元気な「あかし」の赤い「ノボリ」「旗」を揚げさせる。

○高齢者介助・相互扶助の推進：託老所の設置。高齢者の集いに大勢が参加できるよう、歩行困難な人等に補助者をつける（役割をハッキリ決める）。

#### ②生活利便性向上の推進

○移動手段確保の推進：自動車運行互助制度を検討する。買物等の代行実施。気軽に利用できる交通網を整備する。

○高齢者介助・相互扶助の推進：高齢者の集いに大勢が参加できるよう、歩行困難な人等に補助者をつける（役割をハッキリ決める）。

#### ③地域内環境保全、資源リサイクルの推進

○ごみ対策の推進：清掃活動、クリーン作戦の実施。リサイクル・分別収集・減量化・堆肥化運動の推進（各区毎に推進の徹底）。廃品回収の実施。

○公害対策の推進：行政、警察、地域住民全体の協力による不法投棄パトロールの積極的推進。啓発看板の設置。啓発チラシによる地域住民への積極的な啓発活動。

### (3) 地域活性化、産業振興

#### ①特産品を活かした農林産業の活性化

- 特産品開発による農林業活性化の推進：枝豆の様に都会の人に喜んでもらえるものを作る。篠山米、ブランド米を作る。
- 既存特産品の積極的活用：クリ（丹波栗ブランド）、マツタケの復活。
- 新たな販売拠点、流通網の確立：農作物を販売する所を設置する（ネット販売、現地販売所等）。特産品をPRする。都市との交流を進める中で、農産品の販売路、流通を作る。
- 加工品の生産拡大の推進：食品会社を設立する。実業家を募り、地区に食品会社を設立し、地場の食材、地元の雇用を促す。

#### ②新たな担い手確保による農業の保全

- 営農組織の設置：営農組織等を立ち上げ、農業が続けられなくなった家の分も請け負う。
- 若手担い手の募集：高年齢でやっているところに農作業を手伝ってくれる若者を募集する。
- 農業改革の検討：地域でできる農業の改革、改造を考える。

#### ③企業誘致等による新産業の創出

- 企業誘致の推進：企業誘致を積極的に進める。市内全体に波及させる。

#### ④交流拠点、交流機会の創出による地域活性化

- 交流拠点の整備：若い人とお年を召した方が気軽にお茶やお酒を楽しめるサロンをつくる。シルバー人材センターの活用を促す（持てる力を生かせることをPRする）。
- 交流参加のための仕組みづくり：新入住民との融合のため、村祭りに参加できる仕組みづくり（子どもみこしを作り、校庭でねり込みをする）。色々なサークルを作り、参加者募集。
- 新たな交流事業の推進：田舎ツアーで都会の人（海外の人也可）を呼び寄せる。
- 情報発信の推進：ホームページによる情報発信。観光案内看板の設置。地域のお宝発見、名スポットのマップ作成。
- 助成等による若者のUターン促進：城南奨学金創設。城南出身者に対して学費を全額補助する。就職時に城南に戻り、10年定住すれば返済不要とする。

## 2. ふるさとの自立に向けた重点取り組み

### 1) 「里山整備」を活かしたまちづくり

取り組み施策	時期			実施主体		
	短期	中期	長期	地域	企業・団体	行政
(1) 子どもたちが遊べる里山にする						
①利用、保全の計画（事業計画）を立案する	■			■		
②散策道等の手入れ・そうじをする	■	■		■		
③コナラ、クヌギ→カブトムシを育てる	■	■		■		
④シイタケなど栽培し、みんなで食べる	■	■		■		
(2) 里山を6次産業化に活用する						
①土地所有者との利用条件のルール化	■			■		
②流通ルートの確保、丹波栗等の市場性の調査	■	■		■	■	
③事業資金を集める（出資金を募る）		■		■	■	
④獣害防止の対策。どんぐりの植樹		■		■	■	
⑤植樹など技術指導をしてもらう		■		■	■	
⑥栗を使った食品の開発、需要の拡大策の立案		■	■	■	■	
⑦タケノコなどの販売・加工所の開設		■	■	■	■	■
⑧各種加工品をパックする設備の調達		■	■	■	■	■

短期：～2年以内、中期：2年～3年、長期：4年～5年、それ以降

### 2) 「農地保全・活用」を活かしたまちづくり

取り組み施策	時期			実施主体		
	短期	中期	長期	地域	企業・団体	行政
(1) 地域内の耕作放棄地の活用						
①利用、保全の計画（事業計画）を立案する	■			■		
②作物の栽培	■	■		■		
③都市住民の人たちと一緒に作る		■	■	■	■	
④加工品の生産			■	■	■	

短期：～2年以内、中期：2年～3年、長期：4年～5年、それ以降

## 第4章 ふるさと自立計画の進め方

城南地区ふるさと自立計画の推進にあたっては、城南地区まちづくり協議会を中心に、篠山市や兵庫県とも連携して適正に進行管理を行い、「PDCAサイクル」を遂行していくものとします。

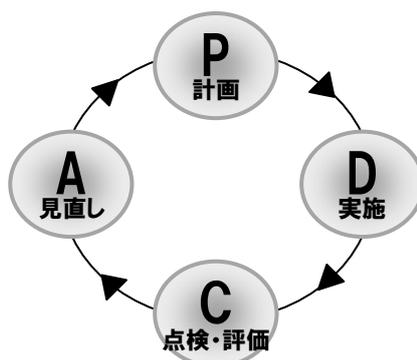
PDCAとは、「Plan（計画）」、「Do（実施）」、「Check（点検・評価）」、「Action（見直し）」のことで、P→D→C→A→P→D→C→A→P→D→C→A→…と繰り返し、スパイラルアップしていくことです。これは、各種活動の実施における問題を適宜把握し、解決、改善しながら将来像の実現を目指す進行管理の考え方です。

### ①計画の作成、活動内容検討

実施する活動について、城南地区まちづくり協議会が中心となって、地域住民の意見を聞きながら、その内容と目標を取りまとめます。

### ④計画の見直し

取り組みの点検評価結果等をもとに、本計画全体の進捗状況を確認し、次の取り組みに反映させます。



### ②活動・プロジェクトの実施

地域住民・まちづくり協議会・NPO、市等のパートナーシップを基本として、地域活性化・環境改善に資する活動及びプロジェクトを実施します。

### ③実施内容の点検・評価

計画内容に照らし合わせて、活動の点検・評価を実施し、年次の事業計画作成内容に反映します。

## 参考資料－城南地区ふるさと自立計画策定の経過

城南地区ふるさと自立計画は、「城南地区ふるさと自立計画策定会議」を中心として、地域の現状や課題、地域課題の解決に向けた具体的な事業の検討を行い取りまとめたものです。

### ■計画策定の経過

		内 容
第1回 (9月2日)	検討内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の現状・課題の確認</li> <li>・地域のこれからの活動の確認</li> </ul>
	(話題提供)	まちづくり・むらづくりとは？ ～各地のまちづくり・むらづくり事例を見ながら～
第2回 (10月22日)	検討内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の取り組みの絞り込み</li> <li>・今後の取り組みの検討について</li> <li>・まちづくりのテーマについて</li> </ul>
	(話題提供)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「これからのまちづくり・むらづくり」</li> <li>～“新しい公共”による地域づくり、地域自治～</li> </ul>
第3回 (11月24日)	検討内容 (話題提供)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから取り組む事業の進め方（話題提供含む）</li> <li>・取り組みの進め方</li> <li>・取り組み内容の企画立案</li> </ul>
第4回 (12月20日)	検討内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから取り組む事業の企画書を作成－その1 (だれが、いつ、どこで、何を、どうする、なぜ、いくら…)</li> </ul>
第5回 (1月20日)	検討内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから取り組む事業の企画書を作成－その2 (だれが、いつ、どこで、何を、どうする、なぜ、いくら…)</li> </ul>
第6回 (3月4日)	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの策定経過の報告</li> <li>・ふるさと自立計画概要の発表</li> </ul>

城南地区ふるさと自立計画

平成 23 年（2011 年）3 月

作成／城南地区まちづくり協議会

〒669-2461

兵庫県篠山市小枕 130 番地

TEL 079-506-0955

FAX 079-506-0956